

2017年インターバイク展報告

(一財)自転車産業振興協会(自振協)は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っている。2017年9月20日から22日かけて開催された北米最大の自転車展示会インターバイク展にも、自振協による共同出展ブースを設け日本企業9社の出展を支援した。同展の概要を報告する。

1. 展示会概要

本年の2017年インターバイク展(INTERBIKE2017)は、米国ネバダ州ラスベガスのマンダレイベイ・コンベンションセンターにて、2017年9月20日(水)~22日(金)の3日間にわたり開催された。展示会の入場者数と出展者数は主催者から正式な数が公表されていないが、去年と比べて来場者が増えた実感はなかった。出展社数については、展示会オフィシャル・ガイドからの集計によると848社である。前年の出展者を同様に集計すると1,081社であったことから、本年の出展者数は前年より2割近くも減少したことになる。昨年使用していたホールE、Fの展示スペースは無くなり、会場内を見回る前にフロアマップを見れば出展者の減少は明らかであった。





展示会場内の様子

主催： エメラルド・エキスポジションズ

開催地： 米国ネバダ州ラスベガス市 マンダレイベイ・コンベンションセンター

会期： 2017年9月20日(水)～22日(金)

展示会場及び面積： ホールB,C及びD(昨年ホールB,C,D,E及びF)

入場者数： 未公表 ※平成29年10月末現在

出展社数： 848社(昨年1,081社) ※展示会オフィシャル・ガイドより集計

出展物は完成車、部品/付属品と多岐にわたり、マウンテンバイク、BMX、シティ車及びE-BIKEといった展示ゾーンも設けられた。また、場内には例年通りイタリア、中国及び台湾の共同出展パビリオンがみられ、今年は韓国パビリオンもあった。米国の大手完成車メーカーが本展不参加となつて久しいが、今年は更にキャノンデール/GT、スコット、BMC、マリン、オルベア及びフジ等のスポーツ車ブランドが展示会場から姿を消していた。中堅の有力ブランドにまで撤退の動きが広がり、完成車メーカーの出展は一層減少している。また、引き続き出展はしているものの、昨年より小間面積を縮小したところもいくつか見られた。なお、今回ホールの端々にテーブルといすを並べた休憩コーナーのような場所も散見され、出展者が埋まらなかったスペースがあった様子も伺えた。



スラム



サーベロ

2. E-Bike の出展状況

現在、米国は欧州市場のような電動自転車(E-Bike)ブームとは言えない状況であるが、本展ではE-MTBを中心にE-Bikeの出展が多く見られた。主な出展者は、地元米国ブランドのラリー(アクセル)やハロー、スペインのBH Bikes、アクセルに属するドイツWinoraのハイバイク、スイスのストーマー等の欧州勢、台湾のBesv等有カブランドの他、中小の新興ブランドも数多く出展していた。それに加えドイツの共同購入組合ZEGのブルズ、オランダ・PON Bike傘下のダービーサイクルのフォーカス等、今年のユーロバイク展に参加していない欧州ブランドも見られ、米国市場におけるE-Bikeの可能性にかける各社の動きには大変興味深いものが感じられた。



各社 E-MTB 展示の様子

(左上 ; ハロー、右上 ; ラレー、左下 ; ブルズ、右下 : フォーカス)

昨年同様、ホール内には電動自転車の試乗コースが設けられた。また電動ドライブユニットの出展者では、地元カナダのBionX、中国のBafang等が見られたほか、ドイツ・ポッシュのブースでは来場者向けにセミナーが頻繁に開催され熱心に聴講する参加者の姿も見られた。ヤマハは去年よりも大きなブースを構え米国市場に本格参入した姿を見せていた。これら世界各国の有カブランドが出展したため電動自転車の展示ゾーンは他ゾーンに比べ賑わいを見せていた。しかしながら、米国を代表する完成車メーカー(スペシャライズド、トレック等)

の出展がないため、これら有カブランドの E-MTB 等の新商品をこの会場で見ることができないことは誠に残念であった。



ボッシュ



ヤマハ

3. アウトドアデモ

本年も展示会開催前の9月18日(月)と19日(火)の両日、アウトドアデモと称した新商品の屋外試乗会が行われた。試乗会場は例年同様、展示会場からシャトルバスで30分程郊外にあるボールダーシティのブートレグ・キャニオンである。オフィシャル・ガイドによると本年の出展者数は64社となり、昨年の111社から大幅に減った。昨年3つに分かれていた展示ゾーンのうち、丸ごと一区画が無くなった形である。当日の天候は快晴となり、両日の来場者数は公表されていないが、実際に18日(月)に現地を訪ねた印象では、会場内は参加者で賑わいを見せていた。なお、いくつかのブースでは現在、欧州市場でブームとなっているE-MTBの試乗車も多く見られた。MTB発祥の地である米国においても、E-MTBが人々に受け入れられ、ブームとなるのか大変注目される。



アウトドアデモの様子

4. JBPI 共同出展ブース

本年13小間を確保し共同出展を行った。下記図表のとおり、(株)三ヶ島製作所(MKS)、(株)ヨシガイ(DIA-COMPE)、(株)本所工研(HONJO)、(株)ASK TRADING(BOMA)、(株)日東(NITTO)、(株)インタ

ージェット (INTERJET)、(株)タンゲセイキ (Tange Seiki)、(株)プロキダイ (AIRFIT/PROKIDAI) 及び宝商(株) (EVRES/The Hosho) の合計 9 社の日本企業が共同出展した。

JBPI 共同出展ブースではペダル、ギヤクランク、ハンドルバー、ステム、ブレーキ、泥よけ、ヘッドパーツ、チェーン等の部品に加え、カーボン製の完成車/フレームや部品等が展示され、更に本年は新たに PROKIDAI が心拍計測機器、EVRES がパンク防止剤を出展し注目を集めた。当ブースは日本の高品質な自転車部品・付属品等が集まる「JAPAN」ブースとして来場者に認知されており、各共同出展者小間では活発な商談等も行われた。

本年の JBPI ブースは、バッチ登録所そばの正面入口に近い非常に利便性の高い場所に配置された。JBPI ブースの周辺はスラム (変速機等)、クリプトナイト (鍵)、ヤキマ (カーキャリア) 及びマクス (タイヤ) 等の部品・付属品の有名ブランドのブースに囲まれたこともあり、一層注目され、初日オープン時には通路は行きかう来場者で溢れるような状況となった。



JBPI 共同出展ブースの様子

図表：2017 年インターバイク展共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所 U R L	電 話 F A X	主な出品物
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市靴谷 1738 http://www.mkspedal.com	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル

(株)ヨシガイ DIA-COMPE	〒571-0008 門真市東江端町 7-25 http://www.diacompe.co.jp	072-884-8020 072-884-8030	ヘッドセット、 ブレーキ等
(株)本所工研 HONJO	〒130-0003 東京都墨田区横川 2-19-10	03-3625-2431 03-3625-2433	泥よけ
(株)ASK TRADING BOMA	〒341-0018 三郷市早稲田 4-10-2 http://www.boma.jp	048-951-5820 048-951-5821	自転車、フレーム等
(株)日東 NITTO	〒334-0013 川口市南鳩ヶ谷 3-23-7 http://nitto-tokyo.sakura.ne.jp/index-E.html	048-286-7771 048-286-1265	ハンドルバー、ステム シートポスト等
(株)インタージェット Interjet	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 2-7-38 新大阪西浦ビル http://interjet.co.jp/	06-6393-3611 06-6393-3822	チェーン等
(株)タンゲセイキ Tange Seiki	〒590-0941 堺市堺区車之町西 1-1-26 http://www.tangeseiki.com/index.php/1	072-224-9990 072-224-9991	ヘッドセット、BB 等
(株)プロキダイ AIRFIT/PROKIDAI	〒619-0289 京都府相楽郡精華町光台 3-5 コミュニケーション研究所オープンラボ 1L http://www.prokidai.co.jp	0774-66-5224 0774-66-5223	心拍計測機器
宝商(株) EVERS/The Hosho	〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-13-11 http://hosho.ne.jp/evers/bicycleplus.html	03-3274-2433 03-3271-8023	パンク防止剤

5. 開催地の移転

本年がマンダレイベイ・コンベンションションにて開催される最後の5年目にあたることは誰もが知るところであり、次の開催場所がどこになるのか注目されていた。このままラスベガスに留まるのか、デンバーやソルトレイクシティ等の新たな場所へ移転か、再びアナハイムに戻る等、様々な噂が飛び交った。結果、主催者は本年開催前に来年2018年の開催地をリノ(Reno)とすることを正式に公表した。上述のように本年出展者が減少し、未公表ではあるが来場者が増えているとは考えにくい状況で、この移転がプラス要因となるのか不明である。リノはラスベガスに次ぐネバダ州第2の都市であり、カジノが主な産業となっている観光地で、国際展示会を受け入れる空港や宿泊等の設備は整っているが、ラスベガスと比べると規模は小さい。更に北米市場の来場者(バイヤー)が引き続きリノへ参集するかどうか、また米国の卸業者や小売業者にとってリノ開催はどのような意味合いがあるのか、関心がもたれるところである。因みに会場ロビーでは、来年の展示会場となるRenoTahoe 宣伝ブースが設けられ、リノ市とタホ湖地域の紹介がおこなわれていた。

次回 INTERBIKE2018 は会場をリノに移し、2018年9月18日(火)～20日(木)の3日間の開催予定である。また、来年のアウトドアデモは展示会前の2018年9月16日(日)と17日(月)の2日間開催予定である。



RenoTahoe 宣伝ブース



各所に設けられた休憩コーナー

以上

※写真はすべて筆者撮影（同展メディア登録済）